

父なる神の願い

(父の願いは子供を喜ばせる事)



学院長 鍛冶川利文

「彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が
その人々を包み、そして、雲の中から、『これは、
わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の
言うことを聞きなさい。』という声がした。」

マタイ17章5節



この個所はあの有名な変貌の山での出来事です。イエス様が三人の弟子を連れて高い山に登り、そこで弟子達は実に驚くべき光景を目にします。イエス様の御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は眩しく光り白くなります。しかもモーセとエリヤが現れ、イエス様となにやら話をします。その光景は正に超自然の荘厳で神秘的な光景でした。弟子のペテロは驚きと恐怖のあまり正気を失います。

このような状況の中、天からの神の声がありました。その声は天を引き裂くような激しい調子ではなく、むしろその場を包み込むようなやさしい言葉でした。「これは私の愛する子、私はこれを喜ぶ」この言葉は他にマタイの福音書の3章17節にも記されています。バプテスマのヨハネから洗礼を受けた後、イエス様が公生涯を始められる時にも同じ言葉が語られました。イエス様にとってこの言葉が語られた時は、これから重大な使命を果たそうとする正に人生のターニングポイントのような大変な時でした。この言葉の内容は何か深い啓示とか、壮大な預言で深い解釈が必要ということではなく、むしろ単純な「私があなたの父であり、あなたの事をいつも見守っているよ」という天の父からの優しい呼びかけです。

父が子供の人生を見守り、その重大な局面に優しい言葉をかける、その言葉はどれほど子供を励まし勇気づけ支えることでしょうか。神という存在が「父」であり、その「父」が「子」という存在を喜び、いつも見守っておられる。そしてこの言葉こそは聖書全体の本質的なメッセージでもあります。キリスト教は一言で言うと「父親の真心の教え」です。これは、難しい教理の問題ではなく、実感です。

最近のニュースを見ると、家庭崩壊、家族がみなバラバラで、親が子供を虐待し、殺してしまうような痛ましいニュースばかりです。今の時代は親子の関係が破壊されているような危機的な時代です。

でも聖書に出てくる父と呼ばれるお方は、たとえどんな事があろうと見離さず、見捨てず、最後まで愛し守り続けて下さるお方です！

1. 「父と子の関係」

イエス様はいつもご自分が天の父の子供である事を強く意識していました。弟子達はイエス様と長く一緒に過ごしました。共に道を歩き、畑や山を越え、町を通り、湖や川の辺で座りながらいろいろな事をイエス様から聞きました。又、病や悪霊に憑かれた人を癒され、ある時は死人を蘇らせ驚くべき御業を弟子達は目撃しました。そんな中で弟子達は、どうしてイエス様はこのような事が出来るのだろうか？この力はいったい何処から来るのか、この方は普通のひととはどこか違う。ただの人ではないという事を知っていきます。そんな中、イエス様が祈りを終えられた時、思い切ってこう訊ねます。「イエス様、どうか私達に祈りを教えてください！」この個所はルカの福音書11章1節の言葉です。恐らく弟子達は、この方の不思議さは、この祈りの中にその秘密が隠されているのではないだろうかと考えたかもしれません。そこで、弟子達はもっと熱心に、力強く、長く祈る事が出来るように、その祈りの秘訣を教えてください！と強く願いました。しかし、イエス様の答えは非常にシンプルな答えでした。それは「父よ！」「天におられるわたした達の父よ！」という呼びかけです。まず祈りの最初に「父よ」と呼び